

「キッチンとダイニングのシームレス化」が加速。 家族との時間を演出する「インテリア家電」が台頭に

アクア株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役 兼 CEO：杜 鏡国）は、自宅での家族との過ごし方やキッチンへの不満・要望に関する調査を実施。近年、家電は機能性だけでなくデザイン性も重視して選ばれる時代になってきており、そのポイントは空間との一体感です。

今回の調査に基づき、近年のインテリア家電需要の背景について、家電コーディネーター／インテリアコーディネーターの戸井田園子氏より、今後のキッチン家電についてコメントをいただきました。また、キッチンとダイニング空間のシームレス化をかなえるおすすめの家電もご紹介します。

リリースTOPICS

- 「理想のキッチンはオープンキッチン・アイランドキッチン」と7割が回答。
「家族とコミュニケーションがとれるから」が主な選択理由。
- 「キッチンとダイニングのシームレス化」で、冷蔵庫などのキッチン家電がインテリアとしての役割を担い、家族団欒の時間を演出している。
- 家電も家具のように、空間と調和するデザインが求められている。

【家庭での家族との過ごし方やキッチンへの不満・要望に関する調査】

調査方法：インターネット調査 調査対象：30～50代既婚、家族と2人以上で住んでいる男女 555名
調査期間：2019年1月17日～19日 対象地域：都市部（東京都、横浜市、大阪市、名古屋市、福岡市、札幌市）



◆監修者◆ 戸井田 園子 氏

家電で時間を産む『時産』を提唱する、家電コーディネーター／インテリアコーディネーター

大手プレハブメーカーでインテリアコーディネートを担当し、インテリア研究所を経て商品企画部へ。そのとき身につけた性能・デザイン・価格などをトータルに比較し、商品の優劣を見極める技術をもとに、独立してフリーに。現在はインテリア&家電コーディネーターとして活動中。

共働き世代は食事の支度時間もコミュニケーションの時間に。 「キッチンとダイニングのシームレス化」で「インテリア家電」に注目。

共働き家庭を中心に、在宅中は、極力他の家族と同じ時間や空間を共有できるようにしたいという意識が増加しています。忙しいからこそ、ダイニングなどの生理的生活空間に+αとして調理など家事を楽しむという意識を求める人が増えているのです。「ワンオペ家事」型ではなく、家事を家族でシェアして行う「シェア家事」型の家庭のキッチンには、ダイニングとのシームレス化が見受けられます。その空間では、インテリアに調和したデザインの家電が求められ、そこでの家族団欒の時間を演出しています。

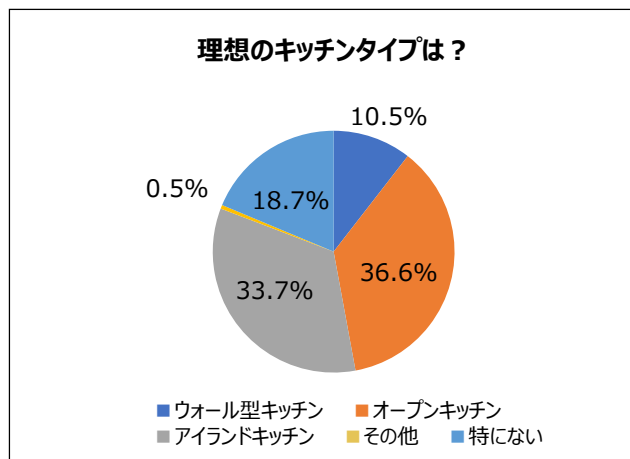
<本件に関する報道関係者さまからのお問い合わせ先>

アクア株式会社 PR事務局（パシフィック・コミュニケーションズ内）山田・守山
TEL：03-6427-2020／FAX：03-6427-2021／MAIL：sales@pcfc.jp

▶ オープンキッチン理想とする人が70%

キッチンのタイプには、キッチンが壁を向いているウォール型キッチン、キッチンの側面が壁についているオープンキッチン、キッチンが独立しているアイランドキッチンと、大きく分けて3種類あります。今回の調査で「理想のキッチンタイプ」を聞いてみたところ、一番多いのはオープンキッチンで36.6%、次いでアイランドキッチンが33.7%でした。

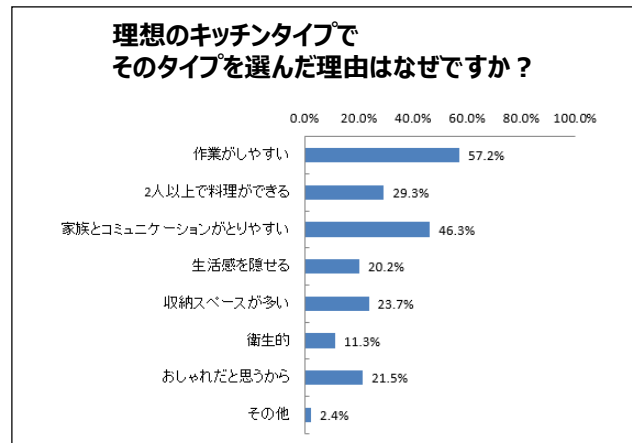
この結果から、**キッチンとダイニングの境目のないオープンキッチンやアイランドキッチンを理想とする人が多い**ことが分かりました。



▶ オープンキッチンを理想とする理由は、「家族とのコミュニケーションがとりやすいから」と46%が回答

忙しい毎日を送っているからこそ、家族と過ごす時間は貴重で、できる限り大切にしたいもの。「理想なキッチンタイプ」を選んだ理由として「家族とコミュニケーションがとれるから」を46%の方が理由としてあげました。

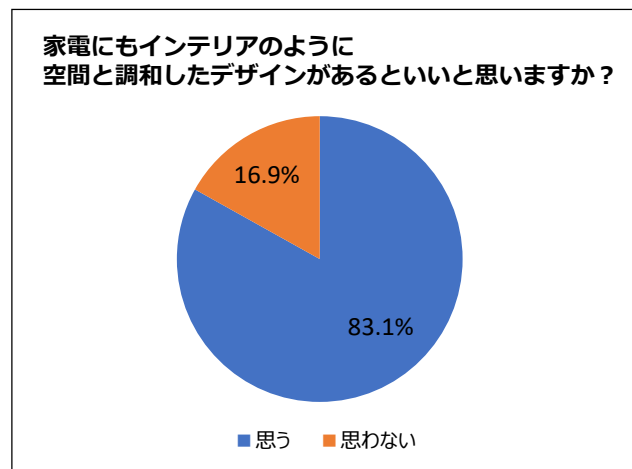
これまで、リビングで過ごす時間や食事の時間を、家族とコミュニケーションをとる時間としていた家庭が多かった中、**食事の支度時間も家族との時間にしたいと考える方が高い割合を占める**ことが分かりました。



▶ 家電のデザインにもインテリアとの調和を求める声が83%

オープンキッチンを理想とし、LDKの境目が曖昧になりつつある現在の住宅状況。調理にかかせない家電のデザインにたいしてもその考え方が変化してきていることがわかります。

「家電にもインテリアのような空間と調和したデザインがあると思いますか？」という問いかけに対して83%の方がYESを回答。**家電単体のデザイン性の高さのみならず、インテリアと調和したデザインを求める声が高まりつつあります。**LDKの境目がないオープンキッチンのような住宅環境では益々、この傾向が顕著になると予想されます。



＜本件に関する報道関係者さまからのお問い合わせ先＞

アクア株式会社 PR事務局（パシフィック・コミュニケーションズ内）山田・守山
TEL：03-6427-2020/FAX：03-6427-2021/MAIL：sales@pcfc.jp

まとめ

- ① 食事の支度をおこなう時間も家族とコミュニケーションをとる時間にしたいと考える人が増えている。そのため、家族の顔が見えるオープンキッチン等が理想のキッチンと回答する人が多数。
- ② 「ワンオペ家事」ではなく「シェア家事」をとりいれている家庭では、「ダイニングとキッチンのシームレス化」がはじまっており、ダイニング周辺にキッチン家電を置き、食事の支度をおこなう時間も家族で楽しむ傾向がある。
- ③ こうした傾向をふまえ、ダイニングは、家族団欒をおこなう空間としてますます中心的な役割を担ってきている。このようなシームレス化した空間には、インテリアと調和する「インテリア家電」が求められており、家族の時間を演出している。

家電ライター兼インテリアコーディネーター戸井田さんおすすめの 家族との時間を演出する「インテリア家電」3選

◆空間全体に調和するフラットで洗練されたデザインの冷蔵庫 TZ51H (AQUA)

プロダクトデザイナー深澤直人氏が手がけた緻密でシンプルなデザイン。角は丸みを帯びマットな質感で、ダークウッドとサテンシルバーの2種類があり、インテリアに合わせて選ぶことができます。LDKの境目のない住宅環境でも、生活感を感じさせない外観が特徴です。

従来の冷蔵庫よりも薄型で全室照明付きのため、冷蔵庫を開けた時に、普段料理をしない家族も食品を見つけやすく、また、キッチン作業中に家族とすれ違う時にはスペースに余裕もできるため、複数人での家事もストレスなく行うことができます。



◆ダイニングテーブルに置いたままでもオシャレなグリル Table Grill Pure (PRINCESS)

遠赤外線効果で野菜や肉、海鮮など、あらゆる素材本来の美味しさに出会えるテーブルグリル。そのオシャレな外観は、使用していない時もダイニングに馴染みスタイリッシュな空間を演出してくれます。

また、プレート中央には穴があり、肉の脂が落ちるヘルシーな設計になっていたり、プレートの表面が滑らかで汚れがこびりつかずお手入れが楽など、見た目だけでなく性能面にも配慮があります。



◆生活感を感じさせないフォルムが特徴的な炊飯器 STAN. (象印)

シンプルなフォルムは、生活感を感じさせず、LDKの境目がないオープンキッチンのような住居空間にもとけこみます。ごはんを盛り付ける。そんな些細な食事の準備の時間も、楽しく演出します。充実機能と簡単操作で、誰でも簡単に美味しいごはんを炊くことができます。



<本件に関する報道関係者さまからのお問い合わせ先>

アキュア株式会社 PR事務局 (パンフィック・コミュニケーションズ内) 山田・守山
TEL : 03-6427-2020 / FAX : 03-6427-2021 / MAIL : sales@pcfc.jp